

# 企 業 の 声 を 聴 く

## —林産技術交流プラザ「懇談会」からのテーマアッパー

佐 藤 真由美

### はじめに

昨今の経済情勢は北海道の木材産業にとって非常に厳しい状態であるというのが総体的な認識となっています。今まで頼ってきた天然林資源の減少や低質化、安い輸入木製品の席卷の中で、中小径材や人工林材を主体とした製品の製造を余儀なくされている北海道の中小木材関連企業を技術的側面から支援し、木材産業を活性化させることが林産試験場の使命であると考えています。

そのためには、今まさにその対象となる木材業者が、技術的に何で一番困っているのかを知ることが必要です。林産試験場では、年間約60項目（平成8年度は62項目）の試験研究テーマに取り組んでいますが、研究テーマを選ぶ際には、林産試験場の各研究員が日々経

済や消費動向などに目を凝らし、専門の立場から産業界、消費者あるいは行政上の要望を把握するよう努力しています。その中で、緊急性の高いもの、効果的と認められるものを優先的に取り上げようとしていますが、全道の生産現場などの現状を把握することは困難です。

そこで、平成7年度からは道内各地に赴き、各地域の林産業界の方々とは直接話し合い、地域の実情、林産試験場に対する要望などを伺う機会を設けました。それが、「林産技術交流プラザ」の中で行っている「懇談会」です。

この「懇談会」は、各地域の木材業界で先導的な企業経営をされている経営者や、林業・林産協同組合の代表の方など、地域の実情に精通されているの方々をお

表1 平成8年度「懇談会」開催日、開催地および出席者一覧

月 / 日	場 所	企 業 側 出 席 者 ( 製 品 等 )	企業等数
7 / 2 (10:00-12:00AM)	豊富町民センター (豊富町)	枝幸町 製材業 (針葉樹製材, チップ) 稚内市 製材業 (針葉樹製材, チップ) 稚内市 製材業 (針葉樹製材, チップ) 豊富町 製材業 (広葉樹製材, チップ) 羽幌町 製材業 (造林, 素材販売, 製材, チップ) 羽幌町 製材業 (造林, 素材請負生産・販売, 製材, チップ, 各木材加工, 土建業ほか) 下川町 町林産行政 美深町 合板製造業 (造林, 素材, 合板, 広葉樹製材, 各種木材加工)	7社1町
9 / 5 (10:00-12:05AM)	北海道国際セミナーハウス (七飯町)	知内町 製材業 (ブナ床板, スギ製材, チップ, 素材, オガライト) 木古内町 製材業 (製材, チップ, 素材) 森町 製材業 (針葉樹製材, プレカット加工) 八雲町 製材業 (製材 ほか) 乙部町 製材業 (トドマツ製材) 江差町 製材業 (造材, 製材販売一般) 函館市 ハウスメーカー (在来木造住宅, 2×4住宅)	6社1組合
11 / 19 (10:00-12:20AM)	小樽市民会館 (小樽市)	倶知安町 製材業 (製材, 木材販売) 赤井川村 製材業 (製材, 木材販売) 京極町 共同組合 (製材, ログハウス) 札幌市 ハウスメーカー (住宅建築) 札幌市 木材加工業 (プレカット加工) 石狩市 集成材製造業 (集成材製造, 建築) 札幌市 製材業 (南洋材製材) 札幌市 きのこ生産業 (食用きのこ栽培, 加工食品)	7社1組合

招きし、林産試験場からは場長以下、研究部長、主任研究員ら、また、林業・林産行政の立場から林務部林産振興課長（補佐）、担当支庁の経済部林務課長らが聞き手となって、各地の現状や林産試験場に対する要望をお話しいただくという企画です。現場の具体的な要望を把握して直ちに研究業務に反映させ、実際に効果のある技術支援をしたいというのが林産試験場の意図です。今回は、平成8年度に実施した3回の「懇談会」（表1）と、それらから浮かび上がってきた研究テーマについて紹介します。



### 「懇談会」の模様

「懇談会」は、「林産技術交流プラザ」の「技術交流会（地域の課題に対する講演、意見交換会）」に先立って午前中に行っています。林産試験場長の趣旨説明の挨拶に続き、話題提供として林産試験場の試験研究の概要や研究成果の紹介、道の林業・林産行政の補助事業の紹介などを行ってから、意見交換に入ります。

ご出席頂いた企業家の皆さんは、製材業、木材加工業、合板業、住宅建築業、きのこ生産業等、業種としてはバラエティに富んでいます。同じ地域で主に木材を対象に活躍されている方々だけに、比較的和やかな雰囲気の中で、率直なご見解を披露していただくことができましたが、不振と言われる木材業を切り盛りしている経営者としての現状認識や問題意識には厳しい雰囲気がありました。北海道の北端と南端、そして道央と、条件の異なる地域を巡ったわけですが、いずれの地域でも共通していた声は、

- ・今までの天然林広葉樹、あるいは大径材から人工林針葉樹材への移行を視野に入れて将来を考えているが、現状を乗り切らなければ将来がない。
- ・厳しい経営の中で、大きな設備投資や消費者になじみの薄い新製品への移行は困難である。既存の設備の部分的な改良などで生産能率の向上・生産コストの削減ができないか。
- ・需要拡大のための公共建築の木造・木質化を一層推進してほしい。

という意見、要望でした。

特に「設備投資の少ない合理化技術」に対する強い要望は、ともすれば性能の高い装置を考えてしまいがちな研究現場のあり方に再考を促すものと受け取れます。個々の地域、個々の工場に対するきめ細やかな対応が望まれているのだと考えさせられました。

一方、地域によりそれぞれ異なる問題も提起されていますので、個々の懇談会の模様を紹介します。

<道北地域（宗谷・留萌支庁、上川支庁北部）>

開催地の宗谷支庁管内は寒冷・風衝地で、上川・留萌支庁管内に比べると、森林資源が少ないように思われますが、天然林資源もあり、カラマツの仲間であるグイマツ人工林もあります。また、稚内や留萌は木材輸入港です。製材業の皆さんは、安い輸入製材に対抗するため、あらゆる工程での歩留まり追求、コストダウンに苦慮されている様子が、発言のはしはしににじみ出ていました。

天然林大径木、広葉樹から人工林針葉樹資源への転換を見越して、現在はまだ評価が低いトドマツ・カラマツ人工林材をいかに使ってもらうか、林産試験場にこれらの材や製品の性能評価、利用者への知識の普及を求める意見が出されました。

<渡島・檜山支庁>

道南地域は気候的にも道央以北とは異なり、生育している樹木の種類も道内では特殊です。林産試験場で主に研究しているカラマツ・トドマツ・エゾマツあるいはミズナラ・カバ類などよりも、経験の少ないスギ・ヒバあるいはブナが話題になると予想し、少ないなりにもこれらの樹種の試験、研究成果を持って臨みましたが、予想に反して、樹種はともかく中・小径材製材へのシフトに伴うコスト問題が前面に出されました。

会議の冒頭から突然の停電に見舞われたにもかかわらず、非常に活発にお話しいただき、林産試験場の技術支援制度や、発行している技術雑誌の内容に至るまで、たいへん参考になるご意見をいただきました。

また、函館のハウスメーカーからの、最近の住宅取得層の要望など、製品を利用する立場からの話題もあ



り、最終消費まで一連の流れとして木材加工技術を考  
えていくことが必要であると感じさせられました。

<後志・石狩支庁>

開催地の小樽市は道都札幌に近く、製材工場とはあ  
まり縁がないように感じますが、小樽港・石狩湾新港  
は輸入木材の荷揚げ港です。また、地図を見ると分か  
りますが、積丹半島<sup>しゃこたん</sup>や石狩山地<sup>かほと ましけ</sup>、樺戸<sup>かほと</sup>～増毛山地<sup>ましけ</sup>など  
案外山林が多く、原木生産現場を持っています。何よ  
りも、人口集中地域である札幌圏に近いことは、住宅  
建築などの大消費地を背景とした地域であることから、  
住宅関係の研究成果を重点的に話題提供しました。こ  
たえて企業側からは、集成材の性能評価、在来構法で  
のシェアが増えているプレカット工程の合理化、防腐・  
防火といった耐久性性能など、建築に直接関わる技術  
的な課題が出されました。

## 研究テーマへ

以上紹介した企業の皆様のご意見から、早急に解決  
を指さなければならぬ課題を抽出し、研究部に提  
示する作業を行いました。各懇談会で、テーマにつな  
がりそうな意見を拾いだし、流通問題など現在の林産  
試験場の研究範囲では手を着けられない課題につい  
ては行政サイドに任せることとし、技術的な課題のみで  
46項目に絞り込みました。

研究部の意見を聞き、既に着手しているものや、過  
去に試みているものなどをふるいに掛け、何回かの検  
討を経て、最終的には、別途行われた「林産新技術・  
新製品懇談会」（平成8年7月、札幌市で開催）から  
くみ上げられた研究テーマ候補と合わせて研究部に提  
示しました。林産試験場では、次年度の研究テーマは  
8月下旬には各研究部から案が提示され、10月の場内  
検討を経て3月半ばに最終検討し、決定します。

「懇談会」からの候補テーマは、平成8年度の最後  
の「懇談会」が11月中旬に実施されたため、通常の研  
究テーマの策定作業に大きく遅れて1月中旬に研究部  
に提示しました。にもかかわらず、場長の「企業が現  
在一番望んでいる研究を優先的に」との熱意にこたえ、  
研究テーマとして「集成材の強度シミュレーション技  
術の確立（研究期間：平成9年度～10年度）」、「週休  
2日制に関する業界アンケート調査（研究期間：平成  
9年度）」などの新規研究テーマに「懇談会」などか  
ら提案された研究課題が取り込まれることになりました  
（表2）。

表2 平成8年度林産技術交流プラザ懇談会、林産新技術・新製品懇談会からの要望を反映した平成9年度研究テーマ

テ ー マ 名	要 望	要 望 企 業 等 の 地 域
集成材の強度シミュレーション技術の確立	集成材の性能・価格シミュレーション技術の確立	プラザ 後志・石狩支庁
木造住宅用プレカット部材の有効活用に関する研究	道産材利用在来構法のための接合技術の開発 (プレカット工程の合理化)	プラザ 道北地域 プラザ 渡島・檜山支庁 新製品 乾燥材協議会 他
週休2日制に関する業界アンケート調査	週40時間労働への対応に関する検討	新製品 各企業団体
道産カラマツの木造橋への利用技術の開発	道産カラマツの木造橋への利用技術の開発	プラザ 後志・石狩支庁 新製品 北海道森林組合連合会
木質系多機能炭化物の利用技術の開発	カンナ屑の有効利用技術の開発	プラザ 渡島・檜山支庁
集成材ラミナの欠点除去技術の開発 (省力化、スピードアップについて対応)	針葉樹集成材製造工程の合理化	プラザ 渡島・檜山支庁
広葉樹を用いた新しい複合材の開発 (低質材について対応)	小径、低質、廃材等からの高付加価値面材製造の可能性	プラザ 渡島・檜山支庁 プラザ 後志・石狩支庁
木質系舗装資材の開発 (廃材について対応)		

注) 要望企業等 プラザ：林産技術交流プラザ懇談会から、新技術：新技術・新製品懇談会から

これらの課題についてはできるだけ早く、2~3年のうちに研究成果を出し、皆さんに提案したいと考えております。また、今回テーマにのらなかった課題についても、順次、何らかの形でこたえていくべく検討して参ります。

#### おわりに

公立試験研究機関というと、企業の人からは難しい研究ばかりしているように見られ、敷居が高くて相談に行けないと考えている方もいらっしゃるようです。しかし、共同研究などで林産試験場を積極的に利用される企業も増えてきています。私たちがハイテク理論に終始するのではなく、既存の設備で何かできないか、

小さな改良で省力化やコストダウンが図れないものかといった、基本に立った研究を進めていきたいと考えています。

林産試験場では、この「懇談会」だけでなく、あらゆる機会をとらえて業界の声を聴き、個々の企業が抱えている問題の解決や、埋もれている新しい発想を実現する手助けをしていきたいと考えています。企業・団体の皆さんが気軽に相談に来られる「開かれた林産試験場」「親しまれる林産試験場」となり、技術的にも本当に役に立てる「頼られる林産試験場」として北海道の木材産業を盛り立てていけるように、さらなる研究・開発に励んでいきたいと思ひます。

(林産試験場 普及課)